指導案　テーマについてみんなで分析してみよう

■基礎データ

|  |  |
| --- | --- |
| 大目標 | ＊＊＊PART3　発散技法の成果を使った収束技法を学ぶ＊＊＊ |
| ステップ・タイトル | ステップ8 >>> テーマについてみんなで分析してみよう（第9・10回） |
| ねらい（学習目標） | ①グループワークにおける親和図法とは何かを知る  ② SWOT分析の方法を知る  ③ある基準で分類して物語を作ることのおもしろさと難しさを知る |
| 使用する技術 | ブレインストーミング法、親和図法、SWOT 分析 |
| 受講者に与えるテーマ（例） | 「理想の〇〇（参加者がよく知っている知識名、組織名、商品名等）」 |
| 進行 | ①導入・グループ分け・説明→②グループワーク→③全体発表（例：各班発表3分・質疑応答3分）→④まとめ |
| グループ内の役割分担 | グループ内で役職を決める。メンバーは必ず何かの役職を担当するようにして、それぞれの役割で作業を進める（なお、本来はグループ内で役職を決めるが、初めのうちは指導者から役職を指定し、役割を覚える形式にしてもよい）。ファシリテーター（1名）、サブファシリテーター（1名）、タイムキーパー（1名・人数が少ない時はサブファシリテーターが兼任）、デザイナー・エディター（数名）、プレゼンター（1～ 2名） |
| 用意する物品 | グループ内で役職を決める。メンバーは必ず何かの役職を担当するようにして、それぞれの役割で作業を進める（なお、本来はグループ内で役職を決めるが、初めのうちは指導者から役職を指定し、役割を覚える形式にしてもよい）。ファシリテーター（1名）、サ  ブファシリテーター（1名）、タイムキーパー（1名・人数が少ない時はサブファシリテーターが兼任）、デザイナー・エディター（数名）、プレゼンター（1～2名） |
| 備考1 | ブレインストーミングによる親和図法、SWOT分析という手法に慣れることを第一目標として、進行や成果物の評価は避けるようにする |
| 備考2 | 「収束技法」を中心に学習したい場合には、テーマを変えながら複数回のブレインストーミングや、様々な収束技法（STEP04の参考文献参照）を毎回実践してもよい。 |

■学習の流れ

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 構成 | 学習活動の内容 | 指導上の留意点 |
| 1.導入  （10分） | 導入（10分） | それではみなさん、挨拶しましょう。おはようございます／こんにちは。  ※受講者にも発声させる |
| 前回のふりかえり | 前回は2週連続で「ブレインストーミングによる親和図法・連関図法」という発散技法と収束技法をあわせた手法について学びました。様々な意見を文字データとして広く収集し、それを２つの収束技法で集約していくことで、メンバーの意見を論理的かつ公平に整理することができます。 |
| 今回の要約 | 今回は、「ブレインストーミング手法」をベースにしながら、新しい収束技法を学びます。「SWOT分析」という企業の現状分析や商品開発、まちづくりなどでもよく使われる手法です。 |
| 2回連続の授業（大学のような2コマ（90分× 2））にわたって実施する場合 | 今回も2週連続です。1回目に説明を聞いた上で作業を行い、2回目には残った作業と発表・質疑応答をします。1班につき、発表は3分、質疑応答も3分、計6分です。2週間、がんばってください。 |
| グループ分け | それではグループ分けをしましょう。グループに分かれる時には、荷物を持って移動してください。  ※グループの分け方は「STEP01 学習の流れ ①導入 グループ分け」参照  ※今回は、グループ内で役職を決めて、それぞれの役割で作業を進める。なお、本来はグループ内で役職を決めるが、初めは役職を指定し、役割を覚えてもらう形式でもよい。その場合は、トランプのマークや番号で指定する方法がやりやすい |
| アイスブレイク | グループに分かれましたか。まずはアイスブレイクをしましょう。A4の紙を使って自己紹介をしてください。各班、A4の紙と黒の細い水性ペンを人数分持っていってください。  ※ A4の紙を使った自己紹介については「STEP01 学習の流れ ④展開3」参照  ※アイスブレイクの説明が必要な場合は「STEP01 学習の流れ⑤まとめ」参照  （10分程度のアイスブレイク後）おつかれさまでした。まだ終わっていないグループも、時間の関係でとりあえず終了してください。みなさん拍手をお願いします。 |
| 2.展開1  （15分） | SWOT分析を説明する  （15分） | 今日は「SWOT分析」について学んでいきます。「SWOT分析」というプリントをこれから配布します。  ※授業のはじめに配布してもよい |
| SWOT分析とは | プリントを見てください。SWOT分析の「SWOT」とは4つの単語の頭文字で作ったものです。  SWOT分析は、自分たちの「内部環境」にある「強み（Strengths）」と「弱み（Weaknesses）」、自分たちの「外部環境」にある「追い風（機会）（Opportunities）」と「向かい風（脅威）（Treats）」の4つ要素を明らかにし、その組み合わせから、今後のとるべき戦略・対策を考えていく手法です。  SWOT分析は、たとえるなら「健康診断」のように、自分自身の状況を把握して対策を考えられるため、会社の経営方針立案、まちづくり、個人のキャリアデザインにまで使われています。  ※プリントの該当箇所を読み上げるかたちでもよい |
| SWOT分析の進め方  テーマを決める | 「SWOT分析の進め方」について説明をします。今日は、説明を全部終えてから、各班でファシリテーターの下に作業をしてもらいます。プリントを引き続き見てください。  まずは、（1）「テーマ」を決めましょう。SWOT分析は、現状を明らかにしたり、課題や問題を把握したり、今後の方針を決めたりしたい時に行う分析です。会社名、組織名、商品名、地域名、個人名などが、しばしばテーマになります。  今日は「○○」という、私たちに関係あるテーマについて、SWOT分析をします。 |
| 個人ワークの説明をする  テーマのSWOTを書く | 次に（2）です。個人ワークで、テーマの強み（S）・弱み（W）・追い風（機会）（O）・向かい風（脅威）（T）を、フセン（黄色が一般的）に書いていきます。1 つの意見を、1 枚のフセンに書きます。意見が10個出てきたら、全部で10枚のフセンに書いてください。後で親和図法を使って分類ができなくなるからです。時間はタイムキーパーに任せますが、だいたい10分くらいかと思います。 |
| SWOTの各要素の説明 | SWOT の各要素について説明します。  強み（S）は、テーマ自身がもつ長所・利点や得意なところ、弱み（W）は、テーマ自身がもつ短所・欠点や不得意なところです。これらは「内部環境要因」と呼ばれます。  追い風（機会）（O）は、テーマ自身に有利になる周辺状況、向かい風（脅威）（T）は、テーマ自身に不利になる周辺状況です。これらは「外部環境要因」と呼ばれます。  意見を書くと、強み（S）・弱み（W）・追い風（機会）（O）・向かい風（脅威）（T）のどこにでも当てはまる内容も出てきます。その場合は主観的・恣意的にどれかを選んでもかまいませんし、同じ内容を2枚書いて発表時にそれぞれの場に出してもかまいません。  内部環境要因と外部環境要因の違いは、自分でコントロールできるものが内部環境要因、コントロールできない・しにくいものが外部環境要因です。 |
| グループワーク1の説明をする  個人ワークの成果を共有する | 個人作業が終わったら、みなさんの手元には手札のように多くの黄色フセンがあると思います。これを使ってグループワークに移ります。プリントの（3）と図1を見てください。  個人作業が終わったら、まずは個人ワークの成果を共有します。「ブレインストーミング」と「親和図法」の手法を使って、集団作業で模造紙の該当する箇所に貼り、ピンクフセンなどでまとめます。模造紙は、図1のように縦軸と横軸で区切って、それぞれの象限の名称を書くとわかりやすいです。  まずは図1 左上の「強み」のようにフセンを分類・整理してください。なお「例」として書かれているものは、「ある会社」をテーマとした時に、フセンに書かれている内容例です。このようにまとめると、テーマ自身の現状と課題が明らかになってきます。テーマの内面と周辺状況、プラス面とマイナス面の両方に目を向けられることがこの手法の特長です。  ※ STEP07の配布資料（「ブレインストーミングによる親和図法・連関図法」）を各人もしくは各班に数部ずつ配布して、説明してもよい |
| グループワーク2 の説明をする  戦略・対策を考える | 集団作業1（図1）が終わったら、図1 によって明らかになったテーマ自身の現状・課題をもとに、戦略と対策を考えます。プリント（4）と図2を見てください。  図1の模造紙は見えるように脇に置いて、全員の前に新しい模造紙を広げて、今度は、強み（S）・弱み（W）・追い風（機会）（O）・向かい風（脅威）（T）の組み合わせによって、自分の強みや追い風（機会）を生かし、自分の弱みや向かい風（脅威）を克服しながら、どのような戦略・対策が考えられるか提案します。模造紙は、図2 のように縦線と横線で区切って、それぞれの軸や象限の名称を書くとわかりやすいです。  まずは、追い風（機会）（O）の中で強み（S）と弱み（W）をどのように生かすかについて考えてください。つまりチャンスを生かして強みで勝負する「積極攻勢」、弱みを克服してチャンスを生かす「弱点強化」です。特に「積極攻勢」が、4つの象限の中で最も競争優位性を発揮できる戦略・対策です。ここでの成功が他の戦略・対策にもポジティブな影響を与えますので時間をかけて考えてみてください。  次に、向かい風（脅威）（T）の中で強み（S）と弱み（W）をどのように生かすか考えてください。自身の強みを生かしてピンチを克服する「差別化」、弱みを克服してピンチに打ち勝つ「防衛」です。  時間があれば図1 と同じように、個人作業と集団作業の組み合わせで黄色フセン・ピンクフセンを使って各象限をまとめます。時間がなければ、いきなり集団作業で、模造紙に直接水性マジックで書いていってもかまいません。 |
| グループワーク3の説明をする  行動計画・改善計画を提案する | 図1と図2が完成したら、明らかになった問題・課題、戦略・対策を整理したり、実現性や優先順位を評価したりしながら、最終的な行動計画・改善計画を考えます。時間があったら、新たな模造紙などに、「行動計画・改善計画」などとタイトルを書いて、直書きで箇条書きしてまとめてもかまいません。  行動計画・改善計画は、先述したように「積極攻勢」が最も競争優位性を発揮でき、他の戦略・対策へも相乗効果を生み出すことができるため、ここを中心にまとめると効果的です。 |
| 3.展開2  （90分） | メンバーの役職を決めて、道具を準備する | メンバーの役職を決めて役割分担します。これから3分ほど時間をとりますので、役職を決めてください。メンバーは必ず何かの役職についてください。 |
| 各役職の説明 | 今回は「ファシリテーター」1名、「サブファシリテーター」1名、「タイムキーパー」1名、「デザイナー・エディター」2〜3名、「プレゼンター」1〜2名です。今回は3分発表、3分質疑応答です。それでは始めてください。  ※各役職の詳しい内容・役職決定の際の注意事項は、「STEP07 学習の流れ ③展開2」参照 |
| 道具の準備をする | 役職が決まったら、次に、道具を自分の班に持っていきます。  まずは模造紙（模造紙大の巨大ポストイットを使う場合には、それを貼るスチレンボードも）を1枚持っていってください。今回は3枚程度使いますが、必要となったら改めて取りに来てください。そして意見を書くための黄色いフセンを1 人30 枚程度なので3 束（300枚）、また意見をまとめる時のタイトルに使うピンクのフセンは数十枚なので１束（100枚）、模造紙の内容をきれいにまとめるための水性の8色マジックセットを1つ、フセンをとめるためのセロテープを1つ、それとメモに使うA4の紙を人数分、班に持っていってください。  なおアイスブレイクで使った黒の水性ペンはそのまま引き続き使ってください。  ※各班道具を取り終えたことを確認する |
| 発表 | 最後は発表です。発表時間は○時○分から、各班、発表3 分・質疑応答3 分でお願いします。発表は、プレゼンターが発表してください。プレゼンターは決められた時間で発表できるようにストーリーを考えてください。質疑応答で想定される質問も考えてください。これらは班の評価を左右するので、プレゼンターだけでなくメンバー全員で練習を行ってもよいでしょう。 |
| 作業開始 | よろしいでしょうか。わからないところがあったら、私が各班をまわりますので、その時に聞いてください。今日の作業終了時間は○時○分です。それでは始めてください。  ※キッチンタイマーなどで時間を計る（終了時に音が出るものなどがよい）  ※時間管理は班にまかせる。必要に応じて作業終了までに「作業終了まで残り○分です」というかたちで周知する  ※発表は1 班から順番に行ってもよいが、ランダムにしたい場合には、作業中に各班のファシリテーターにトランプを引かせるなどして発表順番を決めてもよい  ※授業などで2 回以上にわたって実施する場合のインストラクションは「STEP07 学習の流れ ⑥展開5」参照 |
| 4.展開3  （60分） | ⑷全体発表（60分） | おつかれさまでした、みなさん拍手をお願いします。それでは発表に移ります。1班から順番に発表してもらいます。  ※各班のファシリテーターにトランプを引かせるなどして発表順番を決めた時は、トランプの1番から発表させる |
| 発表の方法・注意事項 | 前に出て発表してもらいます。発表の時には、プレゼンターだけでなく、その班の人全員が、作成した模造紙を持って前に出てきてください。キッチンタイマーを3分間にセットしますので、プレゼンターはスタートボタンを押して発表を始めてください。  ※発表時にはプレゼンターだけではなく、班のメンバー全員が前に出て「班としての発表」を演出した方がよい  そして発表後には質疑応答を行います。プレゼンターは改めて3分間のキッチンタイマーを押して質疑応答を始めてください。  各班から1つは質問してください。回答者は、プレゼンターでもその他のメンバーでもかまいません。3分間の質疑応答の時間を存分に使ってください。  まずは1 班です。メンバー全員、模造紙を持って、前に出てきてください。プレゼンターは、キッチンタイマーのスタートボタンを押して、始めてください。  （発表終了）  ありがとうございました。みなさん拍手をお願いします。引き続き、質疑応答をよろしくお願いします。3分間の時間いっぱいまで各班から必ず1つは質問してください。  （質疑応答終了）  ありがとうございました。みなさん拍手をお願いします。次は2班です。メンバー全員、模造紙を持って、前に出てきてください。プレゼンターは、キッチンタイマーのスタートボタンを押して、始めてください。 |
|  | ※最後のプレゼンターまで発表する  ※大学などで質疑応答が活発にならないことが想定される場合は、下記のように質疑応答を一種のゲームにしてもよい  質疑応答で、質問をした班には、1つの質問についてトランプを1枚差し上げます。トランプには「スペード、ハート、ダイヤ、クラブ」の４つのマークがあるので、どれかのマークを得ることができます。トランプは班でまとめてください。すべての班の発表が終わるまでに、各班で「スペード、ハート、ダイヤ、クラブ」の4つのマークの内、3つのマークを必ずそろえてください。3つのマークがそろった時に、班のメンバー人数分の出席登録用紙と交換することができます。残念ながら最後のグループの発表までに3種類のマークが集まらないと、「欠席」という悲しい事態になってしまいますので、がんばって質問するようにしてください。それではよろしくお願いします。  ※もちろん欠席という事態にはしない。最後の発表あたりでもマークがそろっていない班があった時には、質疑応答の時間を延長するなどして対応する  ※質問内容が貧弱な時には、補足質問をして質疑応答の時間を盛り上げるようにする |
| 5.まとめ  （5分） | ⑺まとめ（5分） | これですべての班の発表と質疑応答が終わりました。みなさん、  もう一度拍手をお願いします。（拍手）  ありがとうございました。  今回は「SWOT 分析」について実際に学びました。  ※数人から感想を尋ねてもよい  ブレインストーミングという発散技法と、親和図法という収束技法、ここにSWOT分析というもう1 つの収束技法を加えると、テーマ自身の現状や課題、戦略や対策などを考え出すことができます。  最初の説明でも言いましたが、この手法は「健康診断」のように、自分自身の状況を把握して対策を考えることができるため、会社の経営方針立案、まちづくり、個人のキャリアデザインにまで幅広く使われています。特に、テーマ自身の内面と周辺状況、プラス面とマイナス面の両方に目を向けられるところがこの手法の特長です。ぜひ使ってみてください。  みなさん、おつかれさまでした。 |

■評価ポイント

1．グループワークにおける親和図法とは何かを知る

2．SWOT 分析の方法を知る

3．ある基準で分類して物語を作ることのおもしろさと難しさを知る

■特記事項

・SWOT 分析は、会社、組織、個人、製品、商品、制度、仕組みなど、様々なものを対象に分析できる。よく使われる手法のため、本手法を習得するためにテーマを変えて数回行ってもよい。

複製・加工等ご自由にどうぞ